【9月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん（高月齢／男児／活発） （2歳5カ月／4月生まれ）	Bさん（高月齢／女児／活発） （2歳4カ月／5月生まれ）	Cさん（高月齢／男児／静か） （2歳3カ月／6月生まれ）	Dさん（高月齢／女児／静か） （2歳2カ月／7月生まれ）
子どもの姿	1. 午睡時は自分の布団へ行き横になるが、寝つけないときに隣の友だちや保育者と話したがる姿が見られた。 2. 室内での体操や運動遊びでのびのびと体を動かし、楽しくなってくるとつい走り出す姿もあった。 3. 片づけのタイミングでは、最初は「まだ！」と言って引き続き遊ぼうとするが、次の活動についての話を個別に聞くと納得して終えることができた。	1. 片付けをしたがらないときがあり、直前まで使っていた玩具をその場に置いて部屋の隅へ行ってしまう姿があった。 2. おままごとが好きで、机にたくさんの料理を並べて「きゅうしょくですよ」「いただきます」と園での生活を再現していた。 3. 家でも休日は布パンツを履くことが増えたが、漏らすとオムツを履きたがるようだった。	無料版：2名分 ↓ 有料版の "おまもりプラス" は12名分が 閲覧＆DL可能！	
ねらい	1. 保育者に見守られながら十分に休息をとる 2. 戸外で十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ	1. 部屋がきれいになった心地良さを感じる 2. 好きな遊びを通して保育者や友だちとのやり取りを楽しむ		
内容	1. 静かに横になり、保育者に見守られながら安心して体を休める。 2. 戸外での追いかけっこや遊具を通して、全身を使って遊ぶことを楽しむ。	1. 保育者や友だちと一緒に楽しみながら玩具を片づけ、部屋がきれいになった心地良さを感じるとともに気持ちよく次の活動に移る。 2. 保育者や友だちと遊ぶ中で、簡単な言葉のやり取りをしながら思いが伝わる喜びを味わう。		
環境構成 配慮 援助	1. 他児の眠りの妨げにならないよう、本児が寝つきにくいときは保育者が側で優しく体をさすったり子守唄を歌い、安心して眠れるようにする。なかなか眠れない気持ちを受け止めながら、「たくさん遊んだから、おめめを閉じてお休みしようね」と一定時間は静かに休息を取れるようにする。 2. 園庭や公園の遊具を使用する前に破損や危険がないかを確認し、安全な遊び方をわかりやすく伝えてから行う。保育者も一緒に遊ぶ中で、のぼる・おりる・走るなどさまざまな体の動きを見せて真似できるようにし、全身を使って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。	1. 次に待っている楽しい活動について伝え、保育者も一緒に片づけながら「この玩具のおうちはどこだっけ」とクイズにするなど、本児が自ら参加したくなるよう関わっていく。一つでも片づけられたらその姿を認め、最後は「きれいになったね」と心地良さを言葉にして伝える。 2. おままごとなど好きな遊びに没頭する中で本児が発する言葉に答え、やり取りを楽しめるようにする。他児と関わろうとする姿を見守り、必要があれば仲立ちして、お互いの思いが伝わるように言葉を補うようにする。		
食事	・口の中に食べ物が残っている状態で話そうとするので、「食べ物が口から出てしまうから、ごっくんしよう」と伝え、食事に意識を戻せるようにする。 ・スプーンを使い自分で最後まできれいに食べようとする姿を認め、「自分でピカピカにできたね」「おいしかったね」と自信につながる声かけをする。	・野菜スタンプで遊んでから給食の野菜の名前を尋ねることが増えたので、「前にスタンプしたピーマンだね」など答えながら食材への興味を育てていく。 ・皿に残った食材をすくうのが難しいときは、後ろから手を添えて一緒にすくい集め、最後は自分で食べられるようにする。		
家庭の連携	3. 園で楽しく過ごす様子を伝えながら、次の活動への切り替えが難しいときの対応や声のかけ方を保護者と共有する。 ・夏の間はサンダルで登園することがあったが、月の後半からは戸外遊びが始まるので靴と靴下を履いて登園してもらうよう伝える。	3. 排泄の自立に向かう本児の成長をともに喜び、園での排尿間隔やトイレに誘うタイミングを家庭での参考になるよう伝える。 ・朝晩と日中の寒暖差が激しくなってくるので、調節しやすい衣服を用意してもらう。		
評価・反省	1.「お友だちが寝ているから、しー、ね」と伝えると理解し、時間がかかっても保育者の側で安心して眠ることができた。眠れない日は、一定時間横になったあとに静かに絵本を読んで過ごすなど個別に対応していく。 2. 何度もすべり台をしたり、保育者や他児との追いかけっこを楽しんだ。すべり台では順番を待てず他児を押そうとする場面もあったので、安全に配慮しながら丁寧に順番を伝え、他児と関わりながら遊べるよう援助する。	1.「この玩具のおうちはどこ？」など個別に聞かれると「こっち」と答え、その後自ら片づけに向かった。遊びが楽しい分気持ちの切り替えが難しいときがあるので、遊びの様子に合わせて個別に声をかけていく。 2. 室内でも戸外でもおままごとを好み、「ごはんですよ」「○さん、どうぞ」と他児と関わり楽しんでいた。保育者も「おいしいですね」「おかわりください」など普段の生活を再現しながら遊びに参加し、言葉でのやり取りを楽しめるようにする。		

子どもの姿の1，2は『内容／ねらい／環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記：LGBTQ+の観点から、『くん』『ちゃん』などを使わず、『さん』で統一しています。ただし、発達段階の観点では性差はあると考えられるため、男児／女児としています。